

牛久：学校周辺に見る自然

第35号 中根小(牛久自然観察の森)

2010年7月25日発行

＜猫足？バナナ？ ～虫こぶの正体は？ ～1年生生活科・学校のまわりを探検しよう！ その6＞

7/15生活科の生き物探し、その6。シリーズ最後は、探検の最後に見たエゴノネコアシ。



エゴノキの若い果実



エゴノネコアシ

写真左がエゴノキの若い果実。実から糸のようなものがぶら下がっていますが、これは雌しべの花柱です。そして、同じ木の他の枝を見ると、クリーム色をした何やらバナナの房のようなものがあります。よく探すと、あっちにもこっちにも結構たくさんついていま

したね。これは「エゴノネコアシ」といって、アブラムシ(エゴノネコアシアブラムシ)が寄生してできた虫えい(虫こぶ)なのです。エゴノキの冬芽に寄生してつぐられ、猫の足先に似ていることから、「エゴノネコアシ」と名づけられたのです。6～7月に、それらの先端が開いて、翅のあるアブラム



割ると中にはたくさんのアブラムシが



先が割れ、翅のあるアブラムシがでてきた



翅のないのも出てきた

シが出てきてアシボソというイネ科の一年草に引っ越しますが、まだ翅のないものも外に出てきているのが観察されました。



←ふくらみ始めたエゴノネコアシ 5/25牛久自然観察の森

その他、時間もなかったので詳しく説明しませんが、こんな虫こぶも見られました。



シロダモハコブフシ(左)、中にはシロダモタマバエの幼虫が(右)



写真とはともに3/2中根小



エノキハイボフシ

：フシダニの寄生によりできるが、くわしい生活は分かってない